

ENDLESS SPORTS

スーパー耐久シリーズ 2021 第4戦

ご報告書

7月31日（土）～8月1日（日）に
オートポリスで行われました
スーパー耐久シリーズ 2021 第4戦における
[3号車 ENDLESS AMG GT4]
レース結果を以下の通り、ご報告申し上げます

開催日：2021.7.31～8.1

サーキット：オートポリス

チーム体制：エンドレススポーツ

ドライバー：内田優大／山内英輝
菅波冬悟／小河 諒

予選結果：6位

決勝結果：3位

シリーズランキング：ST-Z CLASS 1位

[予選／7月31日(土)] 3号車 6位

A ドライバー／内田優大…… 4位 PM 1:55～ ドライ

B ドライバー／山内英輝…… 9位 PM 3:00～ ドライ

C ドライバー／菅波冬悟…… 4位 PM 3:40～ ドライ

D ドライバー／小河 諒…… 4位 PM 4:15～ ドライ

本格的なワクチン接種も始まり、少しは落ち着くのではないかと期待したコロナだが、7月下旬から悪化……。いつ、レースが中止になってもおかしくない状況だった。

第4戦の舞台はオートポリス。今回は5時間という長丁場の戦いのため、シリーズポイントは1.5倍。第3戦の富士でランキングトップに躍り出た当チームだが、2番手との差はわずか2.5ポイントしかなく、まだまだ、厳しい戦いが続く。

第2戦のSUGO、第3戦の富士と連続で表彰台に上がることはできているが、けっしていい状況というわけではない。走ることはできるが、攻めることはできない。レースをするためのセットが決まらないからだ。開幕戦のもてぎから、いろいろチェックしているのだが、原因がわからない。こんなに苦しいレースが続くと、ピット内に笑顔もなくなる。

木曜日、金曜日の走行では、原因として考えられる箇所のパーツを交換したりもしたが、走りが大きく変わることはなかった。

予選。30℃に迫ろうかという暑さの中、始まった。距離も長いし、路面温度も高く、アタックできるのは1ラップ。他のサーキットのように、2ラップ、3ラップのアタックはできない。高い集中力をみせた内田。2分を切ることはできなかったが、2分00秒048をマーク。前日、山内のベストに匹敵するタイムで、Aドライバーの4番手につけた。

Bドライバーの山内は、思うように走ってくれないマシンで1分59秒053まで詰めるも9番手。トップタイムをたたき出したスープラは1分57秒106。2秒落ちた。合算タイムでは6番手になったが、この差は大きい。予選後も原因究明に追われた。

[決勝／8月1日(日)] 3号車 3位

スタート 11時03分57秒 チェッカー 16時07分49秒

路面コンディション ウェット／ドライ

FCY 1回目 14:26～14:29 2回目 15:58～15:59

S/C 1回目 11:09～11:26 2回目 11:29～11:42 (そのまま赤旗提示) 3回目 12:44～12:52

赤旗 11:42～12:44

予報通り、決勝日は雨となった。

早朝のフリー走行は、雨&霧により赤旗が振られ、19分が経過したところで中止。

菅波、小河はマシンのセットだけでなく、ウェット路面のチェックもできないまま、決勝を迎えることになってしまった。前日に比べれば、セットは確実によくなっているのだが、ライバルと戦えるだけの戦闘力がついたわけではない。耐えるレースになることは間違いなかった。

午前11時過ぎ、スタートが切られる。雨はほとんど降っていない。さすがにドライ用タイヤでは厳しいが、路面の水は少ない。スタートドライバーの山内はまずまずのスタートを切り6番手をキープして戻ってくる。メカニックが慌ただしくなる。タイムモニターに出てくる当チームのドライバー名が内田優大……。トランスポンダーが朝の走行時のままになっているという凡ミス。このまま走行すればペナルティを課せられるのは必至。じつはこういったミスに対してのペナルティは、サーキットによって違ってくるのが現状。

もちろん、早急にピットに戻ってきて、ポンダーを切り替えなくてはいけないのだが、このピットストップ時にタイヤ交換や給油などの作業ができるのか、できれば、わずかだがロスを抑えられる。オフィシャルに確認する。その直後にセーフティカーがコースに入る。このタイミングでピットストップ。給油も行う。これで義務付けられている3回のピットストップのうちの1回を消化したことになる。ポジションは最後尾にまで落とすこととなったが、最悪の状況だけは避けることができた。

セーフティカーが抜け、レース再開。後方集団はST-5クラスのマシン。いくら遅いとはいえ、接触するわけにはいかない。プロらしく山内はきれいにポジションを上げていく。しかし、2ラップ後に2回目のセーフティカーがコースに入る。さらに霧が濃くなり、スタートから40分のところで赤旗により中断。

この赤旗中断でレースは大きく動く。

過去にも紹介しているが、スーパー耐久にはいくつもの複雑なルールが設けられている。

例えば、チェッカーまでに 3 回以上のピットストップ。ジェントルマンドライバーは、最低義務走行時間（距離）が義務付けられていて、レース時間（距離）の 20%以上、走行しないといけない。一方、プラチナドライバーは 40%以内しか走行できない。ところが赤旗になると、これらのルールが消滅してしまう。

変更されるルールをドライバーとメカニックで再確認。ひとつでも上のポジションを目指すべく、ミーティングが行われる。マシンの戦闘力を考えると上位入賞は厳しい。シリーズランキングが落ちて、タイトル争いからの脱落は許せない。内田から「最終戦までタイトル争いをやりたい。熱いバトルもやりたい。そのためにもここは変更されたルールを最大限に生かして戦おう」と……。当初は山内の後、内田がステアリングを握り、後半はレースの流れを見ながら小河、菅波がステアリングを握る予定でいた。

しかし、レース再開になり、チェッカーまでの残り時間によっては、あと 1 回の給油で走り切れることも可能となる。とにかく、赤旗中断時の時にいたポジション（49 台中、37 番手）から抜け出し、ライバルたちのいる上位に上がらないことには始まらない。

レースは残り 3 時間 20 分ほどのところで再開になる。雨は完全に上がり、霧も流れ、夏らしい日差しも路面を照らし出していた。50 台弱のマシンが走るレース。瞬く間に路面は乾きだす。ライバルのアストンは、すぐにピットストップ。ドライ用タイヤに履き替える。上位を走るスープラ、AMG、BMW も、数ラップでピットに滑り込んでいく。

当チームの山内もピットに入りたい。しかし、ここでピットストップさせてしまうと、あと 3 回のピットストップをしなくてはいけないことになってしまい、上位入賞は消えてしまう。あと 1 回のピットストップで走り切れるところまで山内が粘る。乾いた路面に走りこんだレインではタイムが上がるわけもない。ドライ用スリックに履き替えたライバルたちが 2 分フラットでラップしているのに対し、限界に達しているレインでは 2 分 12 秒で走るのがやっと……。

20 ラップ過ぎ、山内から小河にスイッチ。最後尾まで落ちてしまうが小河も粘りの走りでラップを重ねていく。ライバル勢とピットストップのタイミングが完全にずれてしまっているので、その差を簡単には比較できないが、小河は 6 番手にまでポジションを戻して、菅波にスイッチ。

70 ラップ過ぎ、ライバル勢のピットストップが終わったところで、菅波は激しい 5 番手争いを繰り広げる。5 番手の AMG。後方にはスープラ。3 台が 5 秒以内でのバトル。

86 ラップ過ぎに上位の一角がピットに入り、5 番手の AMG も捕らえ、4 番手にまでポジションを上げることに成功。3 番手のスープラとの差は 8 秒ほどにまで迫っていたが、なかなか詰められない。90 ラップ過ぎ、スープラがトラブルからピットストップ、3 番手にまでポジションを上げた。トップのアストン、2 番手の BMW との差を詰めるまでにはいかず、3 番手でのチェッカーにとどまった。

しかし、当チームが今できることはしっかりとやることができたのも事実。シリーズランキン

グもトップを死守することができた。次回の鈴鹿までに、見えてこない遅い原因を究明して、ライバルたちとガチでバトルできる戦闘力を備えること。山内／菅波／小河がプロらしい走りを見せ、今回、走ることを我慢した内田には、鈴鹿を思う存分に走ってもらおう。最終戦を待たずに 3 連覇を引き込むそんな走りが鈴鹿で多くのレース&エンドレスファンに見せることができたら……。鈴鹿も全力で挑むので応援よろしくお願いします。